

日本のジェノグラム

早樫 一男

6

名字(姓)の変更

今回はきわめて個人的な話題から始めます。私は小学校の頃、名字が変わり、現在の“早樫”の姓になりました。当然、学校では呼ばれ方は変わりました。一方で、生活は何ら変化していなかったのに、名字が変わるといふ体験はとて不思議な感覚だっことを覚えています。離婚・再婚ケースに出会うと、「子ども達の名字はどうなっているの？」と必ず疑問に思うのは、このような体験がベースになっているからかもしれません。

ちなみに、私の名字の変更について、改めて、確認してみたいと思い、戸籍謄本を見直してみました。昭和26年に両親は結婚し、父の戸籍に母は入籍しています(父の名字となりました)。9年後の昭和35年に父は母の両親と養子縁組の届を出しました。戸籍では、父は母の両親と養子縁組し、母も父(夫)ともに改めて両親の戸籍に入籍となっています。小学校低学年の記憶として残っていることは8歳の頃だったということになります。

ところで、父が母の両親と養子縁組したのは次のような事情からだ聞いています。母は4人姉妹の長女でした。妹3人はそれぞれ長男と結婚し、夫の籍に入りました。その結果、明治生まれの頑固な母の父(私から見れば、母方祖父)は「早樫」の家を誰も継がなくなったということにかなり危機感を持ったのか、家を継ぐ(早樫の姓を継ぐ)ことにこだわったとのこと。そして、長女である母に「家を継ぐ」という話がまわってきた結果、私の父は長男でなかったのに、母の両親と養子縁組をして、「早樫」となったのです。母にすれば、元の家に戻ったという感じでしょうか。数年後、祖父母と同居することになり、父は名実ともに「養子」となりました。

離婚・再婚による名字の変更は夫婦、子どもにさまざまな影響を与えます。あるいは、影響を受けても不思議ではありません。このようなケースを理解する場合、離婚・再婚の中に潜む喪失や別れの課題、そして、生活上の変化ということも視野に入れて考える必要があると常々考えています。

○ジェノグラムから考える：「不思議センサー」の活性化

ジェノグラムからあれこれと考える際、いつも留意しているのは、「不思議やなあ」という感覚です。「不思議」というのは抽象的でわかりにくいかもしれませんが、多くの家族が体験するような（この場合、普通とかあたりまえ、あるいは平均的と表現されます）「多数派の選択」ではなく、「少数派の選択」といったことに関する感覚や感性と言ったものです。それを「不思議センサー」と呼んでいます。この「少数派の選択」の中になんらかの「事情や訳」が潜んでいるのです。

また、「訳（事情）」はストレスにもつながりやすく、援助は「訳（事情）」について理解することから（面接での展開へ）始まると言ってよいかもしれません。

さらに、具体的な日常生活場面に置き換えてみて、一般的にはどうなるかという想像をめぐらせてみることも、ジェノグラムの理解に深みをもたらせることとなります。

名字の変更:あるジェノグラム

以下のようなジェノグラムの場合、あなたならどのようなことに関心を持ちますか？

あるジェノグラム:名字の変更



私はまず、「名字（姓）はどのようになっているのか？」に強い疑問や関心を持ちます。それぞれ、結婚と同時に男性方に入籍していると仮定すれば、3度の再婚のたびに名字が変わることになります。最初の結婚前の名字も含めると、この女性の名字は五つ目になります。

結婚で名字が変わるということについて、心理的な喪失といった方があります。また、結婚によって、それまでの住み慣れた場所や人間関係から別れることも喪失になるとも…。

離婚の場合、夫婦は合意の上ですから、それなりの心の整理ができていたとしても、子ども達にとっては何らかの喪失体験であるのです。

大切な家族の死、死別という情報に触れた場合は、喪失にともなうに心の軌跡と現実的な動きにも疑問や関心を向けています。また、大切な家族の死といっても、子ども、配偶者（パートナー）、親では、それぞれ思いが異なることも容易に想像できることでしょう。

心の軌跡と言うのは、「喪の作業」と言われることであり、「グリーフワーク」(grief work)あるいは「モーニングワーク」(mourning work)のことです。

現実的な動きというのは、「法事」「納骨（遺骨の扱い）」「仏壇」「お墓」「墓参り」といった動きです。これらは、生活の中における作業であり、心の軌跡と強い関連があります。結婚による転居にも関心を向けます。地域との関係や人とのつながり（対人関係）についての特徴や課題など考えてみるのです。

ジェノグラムからあれこれと思いを巡らせるうえで、これらの現実的な動きは大変重要なことだと考えています。

もしも、面接相手なら、さまざまに思い巡らせた疑問を質問に置き換えてみるができるでしょう。

改めて…

ジェノグラムからどのようなことを思い浮かべましたか？

私の中にまず浮かんだ素朴な疑問は、「死別した複数の配偶者の仏壇や位牌はどうなっているのだろうか？」ということです。このことが思い浮かんだのは、妻の死別後再婚されたある男性の家では、仏壇に先祖や先妻の位牌が祀ってあるからです。

さらに、「法事やお墓詣りをこまめにしようとするればとても忙しいだろう？」ということです。この疑問の原点は、これまで出会った人について、そして、その人たちとの中で作り出してきた自分自身の人生について、どのように整理しているのかということに関心があるからです。

その他、さまざまな疑問が思い浮かんでいます。その中で最も大きな疑問は、この女性がこれまで最も大切にしてきたこと、最優先にしたこと（あえて言えば、価値観や人生観など）は何だろう？ということです。みなさんはどのように思いますか？

(つづく)